



AT-TQ3600 リリースノート


この度は、AT-TQ3600 をご購入いただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.0.1

2 本バージョンで追加・拡張された機能


ファームウェアバージョン 2.0.0 から 2.0.1 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加・拡張されました。

2.1 Allied Telesis Unified Wireless Controller

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「Managed AP」](#)

無線コントローラー（AT-UWC）による集中管理に対応しました。
AT-UWC による集中管理に対応するには、AT-UWC のバージョン 2.0.0 以上を使用してください。

2.2 WDS 機能

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

1 台の AT-TQ3600 アクセスポイントに対して、同一機種を最大 4 台まで無線通信で接続し、無線ネットワークのエリアを拡張することができるようになりました。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 2.0.0 から 2.0.1 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

3.1 クライアント未接続時のブロードキャスト/マルチキャスト

本製品に無線クライアントが 1 台も接続されていない場合、イーサネットインターフェースで受信したブロードキャスト/マルチキャストフレームを無線インターフェースに転送しないように変更しました。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.0.0 から 2.0.1 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。


4.1 省電力モードを有効にした無線クライアントが存在する場合、まれに本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。

- 4.2 本製品の「デフォルトゲートウェイ」と「DNS ネームサーバー」の設定を DHCP サーバーから取得している場合、リース期間が満了した後も「デフォルトゲートウェイ」と「DNS ネームサーバー」の設定が本製品に残ったままになっていましたが、これを修正しました。
- 4.3 IEEE 802.11n を含まない無線モード (IEEE 802.11b/g、IEEE 802.11a) で「スタティック WEP」または「IEEE 802.1X」を使用しているとき、無線モードを IEEE 802.11n を含むモードに変更すると、モードを変更する前のセキュリティ設定にかかわらず、「VAP」画面の「セキュリティ」が「無し」の表示に変わっていましたが、これを修正しました。
- 4.4 「VAP」画面の「セキュリティ」の「WPA パーソナル」の「ブロードキャストキー更新間隔」を「0」（デフォルト）以外に設定してもキーが更新されませんでした、これを修正しました。
- 4.5 SNMP の設定において、「トラップ送信先」の「ホスト名または IP アドレス」の「有効」チェックボックスがチェックされていない場合、トラップホストの設定がクラスターで共有されませんでした、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン **2.0.1** には、以下の制限事項があります。

5.1 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)


「無線」画面で「チャンネル選択」を「Auto」、「使用帯域幅」を「40MHz」に設定した場合でも、本製品の起動直後は 20MHz 帯域幅のみで動作します。本製品の起動から約 30 分程度経過すると、40MHz で動作するようになります。起動直後から 40MHz で動作させる場合は、「チャンネル選択」を「固定設定」に設定してください。

5.2 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)


ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。

5.3 WDS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

WDS において、2 台以上のアクセスポイントを中継した多段接続は未サポートとなります。無線ネットワークの中心となる 1 台のアクセスポイントに対し、同一機種を最大 4 台まで接続し、エリアを拡張することができます。

5.4 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

「送信 / 受信」画面の wlan0wds0 ~ 3 の「ステータス」が正しく表示されません。

6 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル（613-001462 Rev.E）は弊社ホームページに掲載されていません。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>